

# 文芸

## ◆俳句

貴女とは違ふ金魚を見ておりぬ

池田 逸子

路の辺に値札大きく今年米

伊藤 敬子

秋高し飛行機雲の行方追ひ

今関満喜子

日溜りに黒き影あり秋の蝶

魚地 照子

醉芙蓉襲たたみゆく風の中

江森 悦子

秋霖や寺傘返す土産店

川島 孝夫

晩秋の入りは帰宅の子を待たず

川島 通則

四人目の曾孫の生れ秋高し

桑名 大行

奥山の無月の寺や「人虎伝」

向後 寛

晩秋の野面暮れゆく音もなし

越川せつ子

晩秋の旅の終わりへ落暉濃し

越川 義則

朝ぼらけ水面に響く鳴の声

小松 藤男

線香の煙ひと筋萩の花

佐瀬 輝夫

晩秋や離るるほどに絆濃し

椎名満里子

国の顔定まらぬ世や霧襖

六倉 道子

秋場所や「まわし」手で打つ音徹る

玉虫 栗扇

雨の夜や独り身に聴く草雲雀

土屋 義昭

松茸の高値をそつと覗きけり

戸村 静華

色づきしみのりを守る案山子かな

長谷川正子

涼風の虜となりて睡魔くる

布施 和代

奥能登の早稲の飯膳ランプの宿

山口 一秋

古里のみやげにもろう今年米

山口 とし

「蟹工船」読めと手渡し秋に病む

渡部 和秋

里芋で今宵豚汁造らむと

押尾 輝子

小雨降るなか畑に出でゆく

野仏も緋の色に染まれり

佐瀬 初音

鈴虫の頻き鳴く声を聞きながら

田崎 尚美

いつしか吾は眠りたるらし

里は終日活気もどりぬ

成田山足どり軽くお参りし

その後池の亀を眺むる

平山 芳子

ランタナの花の蜜をば吸ふ蝶の羽

ひらきとじ聞き閉じらる

西山満里子

菩提寺の貫王のお年は九十六歳

仏陀の教へおだしく語る

青春と澄む空の下紫蘇の実を

摘む指肌匂い残して

幾千の秋虫の声聞ふかく一つに

鳴くを目を閉じて聴く

蝉しぐれ彼方に去りて晩秋の

侘しき心抱きてねわりぬ

越川 義則

高梨 キヨ

土屋 好

吉岡 信子

池田 春江

鈴木まさ子

## ◆短歌

停電の後に開けたる冷凍庫

雨だれのやうに雫垂れあつ

亡き夫の墓を洗ひて二十年

突如の別れ癒ゆる日のなし

モンゴルを巡業せし時魁皇は

人気いちばんの声援を受く

銀となりて飛び来し白鷺は

刈田に円をなして降りたつ

里芋で今宵豚汁造らむと

小雨降るなか畑に出でゆく

松茸の高値をそつと覗きけり

色づきしみのりを守る案山子かな

涼風の虜となりて睡魔くる

奥能登の早稲の飯膳ランプの宿

古里のみやげにもろう今年米

「蟹工船」読めと手渡し秋に病む

# こうほう博物館

vol. 8

## 辻観音院阿弥陀如来坐像

光地域木戸の辻にある観音院は、現在小さなお堂が建っているだけの、お坊さんもない小さな寺院です。ここに古くから伝えられている阿弥陀如来坐像があります。ヒノキを使った一木割彫造という、木を縦に割って中をくり貫いてから合わせ、手や足の部分がつなぎ合わせて造った仏像です。像を彫り上げた後、漆を塗り金箔を貼って仕上げられています。それが古さと荘厳さを醸し出しています。像の高さは53、3cmで、頭部背後に丸い光背が付き、蓮華座のある高さ54cmの台座に乗っています。頭のいばは螺髪と呼ばれて細かく彫られ、額の白毫と前頭の肉髻には切子型の水晶がはめ込まれています。伏せた細い目に、筋の通った鼻、軽く結んだ口もとなど、端正な顔立ち、なで肩に控えめな量感と、右手は肘を曲げて掌を前に向け、左手は親指

と人差し指を接する来迎印を結び、左右足を外にして結跏趺坐（あぐらのような）の姿勢で、見る者の心を安らかにしてくれるようです。そして肩から腹部に薄い納衣の流れるような裳などから、平安時代後期の定朝様式を示しています。

この阿弥陀如来坐像が造られたのは、これらの特徴から平安時代後期と考えられ、当時は社会不安と末法思想が高まったことから、極楽往生を願う浄土教がはやり、盛んに阿弥陀如来が造られ、宇治平等院のような浄土式伽藍の寺院が造営されました。本阿弥陀如来像は県内の仏像の中でも優れた作で、中央（京）の仏師が造ったと考えられ、県指定の有形文化財にもなっています。



▶ 辻観音院阿弥陀如来像